

# 小児科学

[講義] 第2学年 前期 必修 1単位

《担当者名》太田亨 ohta@hoku-iryo-u.ac.jp

## 【概要】

周産期、出生から思春期に至るまで、さまざまな体の成長に伴う変化があり、感染症などの外部からの侵襲、遺伝的要因など原因を理解し、小児特有の疾患に対応できる知識を身につける。

## 【学修目標】

医療従事者としての、小児の患者に接したとき、その疾患に適切な対応ができるようになる、次のような医療知識を身につける。

### 【行動目標】

1. 出生から、新生児期、乳児期、幼児期、学童期に運動、知能発達のマイルストーンが説明できる。
2. 小児の栄養・バイタルサインが説明できる。
3. 周産期・新生児期特有の疾患が列挙できる。その疾患の将来の影響が説明できる。
4. 先天奇形・染色体異常が説明できる。
5. 小児期の感染症の種類・症状・治療が説明できる。
6. 小児期の免疫異常、代謝異常が説明できる。
7. 小児期の内分泌疾患、思春期に移行する際の異常が説明できる。
8. 小児独特の腎臓疾患が説明できる。
9. 小児の神経疾患、筋疾患が説明できる。
10. 小児の救急性疾患が説明できる。
11. 小児の死因・疾患の頻度が説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	小児の成長と発達	小児の身体の成長・発達・栄養について学ぶ。	太田亨
2	新生児	新生児医療・新生児疾患(1)について学ぶ。	太田亨
3	新生児・先天異常	新生児疾患(2)・染色体異常について学ぶ。	太田亨
4	感染症	ウイルス感染症・細菌感染症・予防接種について学ぶ。	太田亨
5	免疫アレルギー性疾患・代謝性疾患	免疫不全・喘息・アトピー性皮膚炎・先天性代謝異常・小児の糖尿病・低血糖などについて学ぶ。	太田亨
6	循環器疾患・内分泌疾患	胎児循環・先天性心奇形について学ぶ。 内分泌疾患低身長・思秋期早発症・甲状腺機能異常・尿崩症について学ぶ。	太田亨
7	腎疾患・血液疾患・	小児の急性腎炎・慢性腎炎、先天性の腎・尿路系異常・白血病・小児の悪性腫瘍について学ぶ。	太田亨
8	神経疾患	神経脳性麻痺・発達異常・痙攣性疾患・筋肉疾患について学ぶ。	太田亨

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

定期試験100%

## 【教科書】

白木和夫 他 編 「ナースとメディカルのための小児科学」 小児医事出版社 2014年

## 【参考書】

西 基、他：『New Simple Step小児科』 総合医学社

**【備考】**

Google FormやManaba を活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

**【学修の準備】**

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと。(80分)

復習は、講義項目のプリント内容を記憶すること。(80分)

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP2 . 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

**【実務経験】**

医師

**【実務経験を活かした教育内容】**

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している